

第3回学校運営協議会

1 実施日 令和6年2月22日（木）15:00～16:30

2 出席者

（1）協議会委員（五十音順）

柏原 泰和（川西地区青少年健全育成協議会会長）

林 武文（関西大学教授）

松葉 祐治（高槻市立郡家小学校校長）

山本 富美恵（三島高等学校PTA会長）

（2）学校側

山下克弘校長、山崎一郎教頭、廣澤洋二首席、古謝伸二事務長

3 議題

（0）1月24日（水）開催の音楽祭の映像を鑑賞した後、以下の議題についての審議を行った。

（1）学校教育自己診断結果について

（2）令和5年度学校経営計画評価及び令和6年度学校経営計画について

4 委員からの指摘提言

（1）学校教育自己診断結果について

- ・教員がそれぞれ問題意識をもっているのが良いのではないかと思う。
- ・図書室のあり方も変わりつつあるのかなと感じる。
- ・ホームページが広報的に魅力的なものであれば良いと感じる。
- ・学校教育自己診断の評価や分析が教員の自己啓発に繋がっていて良いと思う。
- ・ボトムアップで、教員全体で三島高校を良くしていこうという姿勢が、前向きな状況に繋がっているのではないかと思う。
- ・新型コロナウイルス感染がおさまり、小・中学校でも行事や交流・課外活動が増え、子どもも体験を通して育まれるものだと感じる。学校は教員が目前の児童生徒を見ながら作っていくという点については、あらかじめ今後も続けていただきたいと思う。
- ・いじめについて困っている点があれば…という項目については、保護者からすると、「そもそも三島高校ではいじめはないのでは？」と思われた方が多くて、回答に困ったのではないか。だから、「わからない」と回答している方が多いのではないかと思う。
- ・教育活動や進路について、教員自身の評価は低いのが、日々の生徒への対応を見る限り、もっと自信をもっても良いのではないかと思う。

（2）令和5年度学校経営計画評価及び令和6年度学校経営計画について

- ・コロナ禍を経ても、指標を概ね達成しているので、先生方が一丸となって取り組まれていることがわかった。
- ・英検に関して、大学入学等で必要ならば受ける生徒も増えるが、そうでないならば、人数が増えることはないと思われる。資格よりも、国際交流で実際に留学生を受け入れたり、海外の学校と交流したり、海外に派遣して、海外で活躍したいと思わせたりするような教育を充実させてほしい。その上で、TOEFL や TOEIC など

の資格を受けたり、勉強をしたりすれば良いのではないかと思う。昔に比べて、英検の位置づけが重視されなくなってきたのではないかと感じる。

- ・国公立大学の合格者数も含めて、いろいろな数値が良く、素晴らしい学校だと思う。
- ・無償化による私学への政策が心配。施設設備の差が大きいので、そのままでは公立が不利。そんな中で三島高校はよく頑張っていると思う。
- ・三島高校と郡家小学校で交流をさせてもらっていて、兄弟姉妹が三島高校に通っているという児童もいるが、それを嬉しいと感じているようで、同じ地域に郡家小学校があることがありがたいと感じる。
- ・クラブ加入率が徐々に減っているのはなぜだろうか。入りたいクラブがないのか。新しいクラブを作りたいが、実現に至っていないのか。また、コロナ禍の影響で消極的になっている生徒も若干いるかもしれない。
- ・授業参観をするたびに、授業が毎年面白くなっているなど感じる。子どもが今までは授業の話は一切言わなかったのに、初めて感想を言ったことがすごく嬉しかった。
- ・クラブ活動については、外部や地域の人材をもっと活用できないだろうか。
- ・グローバル化については、さらに盛り上げてもらいたい。
- ・クラブ等で叱咤激励する中で、人間関係のコミュニケーションが培われ、それを大切に思われている先生もいるので、本当はクラブを指導したいのにできなくなるのは、それは不本意である。現場の子どもたちに本当に大切なものは何かを見て欲しい。
- ・働き方改革と、子どもたちの教育の充実をどうバランスをとるべきか、教員の思いもあるし、子どもたちの成長も認めながらもあるので、難しい。ただ、保護者の観点から見ると、学校で何かすることがあるのは嬉しい。なので、バランスをとることは大切だと思う。
- ・三島高校を選ぶ理由は、文武両道（部活動に熱心で、進路実績も良い）であり、先生の負担が減ることは大事だが、いい部分も減ると、なんのために三島高校に入れたのかなとは思うので、部活動にもしっかり取り組んでもらいたい。

※令和6年度学校経営計画については、全員一致で承認された。